



2 / 屋根裏スペースを利用した勾配天井は、広間を2階に設けた大きな特典！変化のある空間と、適度な開放感が心地いい！

2 / ベランダと一体になった広間は開放的で、生活を楽しく演出してくれる。

3 / 東道路からの外観。大きな塗り壁が印象的で、家のタイトルは、この外観からも連想される。



側隣地の事が気にかかります。

第二案は、1階に玄関とアトリエを設け、2階に広間や台所、水回りを設ける案。生活スペースは2階になり、採光や通風の不安は少ないが、水回りを2階に上げたことで、将来的な生活が不安。

どちらも一長一短があり、なかなか決め兼ねていましたが、最終的に、明るく心地良い生活スペースを重視したいということで、2階に広間とキッチンを設置する案に決定しました。

全体計画の検討

第一案は、アトリエと生活スペースの両方を1階に配置する案。お互いの関係もよく、平屋的なフォルムは魅力的。ですがそれぞれの広さは十分とは言えず、やはり南側隣地の事が気にかかります。

そして、アトリエと共に、浴室やトイレなどの水回りを1階に設け、将来的にはアトリエスペースを広間や台所として使う可能性も視野に入れ計画しました。また、1階と2階にはそれぞれ6帖ほどの部屋を配置し、寝室や子供室として、その時々様で使い分けていく事になりました。

結果として、1階のアトリエは12帖の広めのスペースを確保することが出来、大切にしていくオートバイを入れて置くこともできるスペースになりました。また、2階に配置した広間や台所、寝室は、屋根裏スペースを余すことなく利用し、ロフトや勾配天井などといったボリューム感のある空間になりました。生活スペースが2階ということで、ウッドデッキや、植栽などの庭のスペースを確保することはできませんでしたが、広間の大きな解放感から連続する

暮らしを描く 大きなキャンバス

建築例／

静岡市『キャンパスの家』

文・写真／ココロボ 山崎健治

住まいをキャンバスに例えるならば、
そこでの暮らしは絵を描く事。
ゆっくりと。じっくりと。お気に入りの一枚を描いて行こう！

今回ご紹介するKさんのお宅のタイトルは『キャンパスの家』。このタイトル、毎回お施主さんご家族や、家の特徴などから伝わってくる印象で、私の独断で付けさせていたのですが、今回は今までと少し変わったタイトルになりました。

「家づくりは真っ白なキャンバスから始まり、そこに暮らす家族が時を重ねながら色々な色を入れていく。そして、そのキャンバスに描かれた絵は徐々に姿を変えながら深まりを増し、終わることなく描き続けられていく。」

木の家を大きなキャンバスに、また暮らしを一枚の絵に例えて今回のタイトルを付けさせていただきました。

『キャンパスの家』の特徴の一つは、アトリエと生活スペースの配置。利便性を考え生活スペースを1階部分に配置したいが、南側隣地の畑の今後が心配？ 畑がそのままなら採光・通風共に問題なく期待できますが、2階や3階建ての住宅が建つと不安な面もあります。またアトリエは、Kさんのご職業柄ちよつと広めのスペースが必要で、大きな絵画を出し入れする事も考えておこなうてはいけません。Kさんご夫婦と共にあれこれ考えましたがすぐに答えの出る問題でもなく、まずは、2つの案を作成し、それぞれを検討していく事から始まりました。



5



4

4 / 広間東面に配置したハイサイド窓からは、季節で移ろう山の景色が楽しめる。毎日の何気ない変化が心地よく、静かな時が流れていく。

5 / 多目的に利用できるスタディー＆ワークスペース。本やCD、ちょっとした置物などがこの部屋のインテリア。季節や子供の成長に合わせ、色々なインテリアに変化させて楽しんでもらいたい。

仕様内容

家族構成	夫婦 2 人＋子供 1 人
敷地面積	187.81 m ²
建築面積	57.14 m ²
延べ床面積	103.53 m ²
構法	在来工法 2 階建
外部仕上	屋根 ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き 外壁 ガルバリウム鋼板 小波張り＋ラスモルタル下地 ジョリパット吹付け仕上げ
外部建具	桧オリジナル木製建具 (ペアガラス)＋アルミサッシ(ペアガラス)
内部仕上	天井仕上 杉板本実張り 厚 12mm 壁 漆喰コテ押さえ、タナクリーム塗り 床 杉板本実張り 厚 40mm、30mm
内部建具	オリジナル木製建具 (一部古硝子使用)
キッチン	オリジナルキッチン 天板：ステンレスヘアーライン
設備	浴室 オリジナル浴室 壁、天井：青森ヒバ FJ 張り 厚 15mm 床、腰壁：サーモタイル 200 角貼

設計者 山崎健治
施工 有限会社 ころも 木造建築研究所
竣工 平成 23 年 11 月



今回ご紹介したKさんのお宅は、静岡市の中心地にほど近い場所にも関わらず、周辺には田んぼや畑が広がり、また、近くの山並みや、街道の桜並木などが楽しめる恵まれた環境です。せつかくなので、この恵まれた周辺環境を少しでも家の中に取り込みたいと思い、ちよつと工夫した窓を設けました。広間の東面には、道路の向かいの

空間をつなげる ハイサイド窓

たり、子供の勉強や家計簿、ちよつとした仕事も出来る場所として使えたら便利だと考えました。扉や引出は無いけれど、本の背表紙やCDなどもインテリアの一つと考えれば、生活感を出しつつもアレンジしていく楽しみもあると思います。

家を隠し、山並みを望むハイサイド窓を設けたり、寝室には、桜並木をパノラマで楽しむ横長のコーナー窓を配置しました。大きなコストは掛かっていませんが、ちよつとした工夫で暮らしを楽しむ事が出来ると思います。

これからの時期は、一年の中で最も華やかな季節です。山の新緑や、桜並木の開花などが家の中から楽しめるなんていいですね。家の様々な窓で感じられる春を満喫してください。

昨年の11月に住宅が完成し、Kさんご夫婦との出会いから3年以上が経過しました。長かったような短かったような？ これからのキャンパスにどんな絵を描いていくのか？ お子さまの成長と共に、楽しみにしていきたいと思っています。



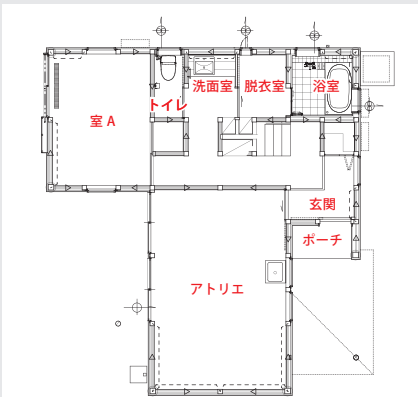
第二案

生活スペースを2階に上げ、大きなベランダを南側に配置した案。採光や通風の心配も少なく、明るく開放的な暮らしがイメージ出来るが、水廻りを2階に上げた事で、将来の暮らしに不安が残る。

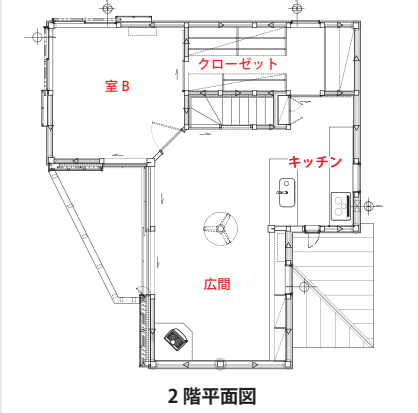


第一案

アトリエと生活スペースの両方を1階に配置する案。南側の敷地に建物が建っても採光を得られるよう、ハイサイド窓を設置。平屋的なフォルムは魅力的だが、南側からの採光面に不安が残る。



1階平面図



2階平面図



最終案

二案の利点を生かし、広間とキッチンで2階に、アトリエと水廻りを1階に配置した案で決定！アトリエの広さも十分に確保でき、広間も明るく開放的な空間に。2階に設けたそれぞれの部屋から、山の景色や街道の桜を楽しむ窓を設置。それらの窓がアクセントになり、ファサードも決定！よし、これでいこう！

検討の様子

設計者にとって、住宅設計の醍醐味と言えば、間取りなどを含めた全体計画。敷地条件や周辺環境、お施主さんの希望などを上手に組み合わせ、「これしかない！」と思える計画が出来たときは、なんとも言えず幸せな気持ちになります。しかし、難しい敷地条件やコストの問題などもあり、そう簡単に出来るものではありません。『キャンパスの家』のスタディー模型を見ながら、全体計画の検討の様子をご紹介します。

計画当初から気にしていた南側隣地ですが、Kさんとの設計打ち合わせをしている間に住宅建築がはじまり(設計期間が長いので...)、Kさんの家が出来る前に完成していました。あれこれ悩んだ部屋の配置でしたが、今回の案にして良かった！と、ほっとしています。

アレンジが楽しめる 壁一面のワークスペース

『キャンパスの家』のもう一つの特徴は、広間に取り込んだ壁一面のスタディー＆ワークスペース。Kさんのお宅は、階段を上がるとそのまま広間につながります。広間はただテレビを見る部屋という訳ではなく、家族みんなが集まる場所なので、もっと色々な使われ方が有ってもいいのでは？と常々思っています。今回は、大きな本棚と机を壁一面に配置し、家族の色々な物が置いて、みんなが使えるスペースになればと計画しました。本やアルバムはもちろん、オーディオやテレビ関連の機器などを置く